

令和元年度
PTA会報

いわき市立川部中学校

～PTA役員としての一年間を終えて～

PTA会長【大井川】

一年間PTA会長という大役を無事に全うできたのも、PTA役員をはじめ保護者の皆様のご協力と、そして校長先生をはじめ諸先生方のお力添えがあってこそだと思います。活動を通して『人と人のつながりの大切さ』を知るきっかけにもなりました。改めて深く感謝を申し上げます。

『一年間本当にありがとうございました。』

平成から令和へと時代が移りゆくなか、川部中学校では生徒数の減少が深刻化しています。『強い川部中学校』を守るためにも今以上にひとりひとりの協力が不可欠です。保護者の方々も多くの行事に参加いただき、意見を交わしながら学校や地域とのつながりを深く感じて下さい。未来に向かって是非行動に移して下さい。よろしく願いいたします。

体育・文化後援会長【蛭田】

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者のみなさまには、日頃より部活動へのご協力とご支援に感謝申し上げます。部活動、それはスポーツだったり芸術だったりします。私は常々子どもたちに、「何のために部活動をしているの？」と尋ねます。「勝つため」「好きだから」「自分を鍛えるため」・・・さらに尋ねます。

「自分のためだけに部活動をやっているの？」と。

ラグビーや野球や相撲を見て感動する。きれいな音楽を聴いて感動する。部活動って、人を感動させるためにするんじゃないかなと話します。卒業生に一つ、言葉を贈ります。今年のお正月に新聞で見つけた言葉です。

大逆転は、起こりうる。

わたしは、その言葉を信じない。

どうせ奇跡なんて起こらない。

それでも人々は無責任に言うだろう。

小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。

誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。

今こそ自分を貫くときだ。

しかし、そんな考え方は馬鹿げている。

勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。

わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。

土俵際、もはや絶体絶命。

「ここまで読んでくださったあなたへ。文章を下から上へ、一行ずつ読んでみてください。逆転劇が始まります」

子どもの追っかけ、楽しかった。感動をありがとう川部中の子どもたち。これからもよろしく。そして最後に、ご指導いただいた先生方、ありがとうございました。

～PTA会員のみなさまへ～「今年度を振り返って」

『川部中でしかできない特色ある教育の推進』

校長 齊藤 俊明

平成から令和へ時代の年、そして台風 19 号や新型コロナウイルスによって子どもたちの生活や教育に大きな影響を与えた一年でしたが、本日卒業式を迎えます。この 1 年間 P T A の皆様には、川部中学校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。

さて、今年度を迎えるにあたり、教職員で川部中学校の S W O T 分析を行い、強み（校内の環境や資源の中で活用できるもの）、課題（修正すべきもの）、機会（学校に支援的に働くもの）、恐れ（学校に阻害的に働くもの）など今の川部中の置かれている状況分析を行い共通理解を図りました。

共通して関連してくるキーワードが「少人数」。

少人数のため競い合う事が少ない。同じメンバーで 9 年間を過ごすため人間関係が固定化されやすい。部活動が限られてしまう・・・

一方で、一人ひとりに目が行き届く。誰もが役割を与えられ責任を持って取り組んでいる。不登校・深刻ないじめがない・・・等々

これらを踏まえ今年度の学校運営の基本方針として

『一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進』

『川部中でしかできない特色ある教育の推進』

を掲げ少人数の強みを活かした教育を一年間取り組んできました。

学習面では、どの生徒も真面目に授業に取り組んでいます。教員もデジタル教科書の活用や授業スタンダードを利用した授業改善、各種検定の積極的受検推奨、昼休みの補習など熱心に取り組んでくれています。どの学年も県平均を上回る学力を身に付けていますが、学校評価アンケートでは保護者からもっと学力向上に力を入れてほしいとのメッセージが数字として現れました。

生徒会活動では、少ない人数でひとり何役も兼務しながらそれぞれの活動に真剣に取り組んでいました。四時祭での生徒の生き活きとした表情が全てを物語っていたのではないのでしょうか。また部活動でも各部とも懸命に取り組む姿が見られました。その中でソフトボール部の県新人大会二年連続の準優勝は特筆すべき偉業です。どの部活動の大会に行っても選手の数以上の保護者が応援に来ていただき全面支援していただいていること、選手の大きな力となっていました。

さて、次年度以降の全校生の推移予想は、57 名→43 名→40 名→35 名→24 名となっています。今年度以上に少人数の良さを全面に打ち出し、『一人ひとりの可能性を引き出す教育』『川部中でしかできない特色ある教育』を更に推進していかなければなりません。

保護者の皆様、そして卒業した保護者の皆様も含め地域全体で川部の子どもたちを共に育てていけるよう、一人ひとりの可能性を引き出していけるよう今後も御支援をお願いいたします。

～今年度のご協力に感謝をこめて～

総務・母親委員会 1年学年委員長【常盤】

今年度一年間、大変お世話になりました。役職について分からない事も、先輩の保護者様から教えてもらいながらの一年でした。四時祭等、思い出に残りますが、生徒会総会での、生徒同士の意見のやり取り等、出席していて面白いなと感じました。

これからも、生徒、保護者、そして先生方、地域の方々との交流の場として、活気ある川部中学校になればいいなと思います。ありがとうございました。

総務・母親委員長 3年学年委員長【大前】

本年度も学校生活の様々な事柄が無事に執り行なわれ、先生方を始め保護者の皆様や地域の方々の御協力に感謝申し上げます。今後も川部中学校が小規模校ながらも地域に愛される学校であればと思っています、一年間ありがとうございました。

施設委員長【蛭田】

先生方、保護者の皆様には毎回多大なるご協力、ご支援ありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。施設委員では、例年プール清掃、親子奉仕作業を行っております。プール清掃では平日にも関わらず都合をつけて参加して頂き、子供達も、先生やお家の方に感謝していると思います。昨年の夏は猛暑が続き夏休みには各部活動でもプールに入っていたとのこと、沢山活用してもらえました。来年度のプール清掃は、総会の事業内容にもあったように土曜日の実施と学校側にご配慮頂き、より多くの保護者方への参加を呼びかけてもらいました。

2学期始めの親子奉仕作業では、早い時間からでしたが暑い中、先生、生徒、保護者で役割分担し校庭の整備、草取り、本当にありがとうございました。その他今年度は地元企業のお力で、校庭のマウンド、陸上競技用の砂場の整備をしてもらい使いやすい環境になりました。そして、震災後に削り取って校庭に一時的に保管していた除染土も、ようやく搬入してもらいました。校舎のトイレも、一部を多目的トイレに改修してもらい安心、安全に使用できること本当に嬉しく思っております。来年度も引き続き、先生方、保護者の皆様、変わらぬご協力、ご支援よろしく申し上げます。

卓球部保護者会長【佐藤】 『卓球部保護者会この1年』

卓球は団体戦もありますが、基本は個人競技。プレッシャーのかかる試合もあったことでしょう。しかし、大会ごとに力をつけ強くなっていく姿に幾度となく感動させてもらいました。最後の中体連では敗戦し悔し泣きをする子供達を間近で見て、保護者も一緒に泣いてしまうほどでした。厳しい練習・試合を通じて、卓球の技術だけではなく、人としても大きく成長してくれたことと思います。

中学から卓球を始めた部員が多い中、経験者や多勢校にも対等に戦える力を付けていただいた顧問の鈴木先生、五十嵐先生には感謝の言葉しかありません。また、保護者の皆様には子供達の送迎、練習や試合のサポートなどで御協力をいただきましてありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

水泳部保護者会長【蛭田】

3年生2名、2年生3名、1年生2名の計7名で今年度出発。新入部員を迎えた5月には部員と保護者で親睦を深め、部員は短期間での練習の中、迎えた中体連。1年生は無事泳ぎ切り、課題はありましたが悔しがる姿にこれからの練習、大会に期待がもてました。2年生は会場には来れなかった部員からの応援を胸に、一生懸命泳ぐ姿に感動をくれました。3年生は出場種目に集中する、部員のサポートをするなど、しっかり自分達の役割を分担。大会にあたっての注意事項や携わってくださる関係者の方への挨拶、感謝を後輩達に教えながら、先輩としての役割を立派に果たしていました。夏休みには、市のスポーツ大会に出場。いわき市のスイミングクラブの小学生や中高生、それに大人の方と、幅広い年齢層の中の大会。楽しみながらも、自己ベストを更新。女子部員は3年生との最後の大会でリレーにも出場。個々の力を合わせて団結しました。3年生引退後の新人戦。2年生はしっかり先輩の後を引継ぎ、1年生も共に今シーズン最後の大会を頑張りました。これも、いつも皆を応援してくれる部員、指導してくださる先生、水泳部の為に協力して下さる親御さんのおかげです。ありがとうございました。大会に出場する部員は、そのことに感謝をし、これからも活動して欲しいです。最後に私にとっての水泳部は、部員も保護者も和気あいあいといつも一緒にいるような、家族のような存在でした。これからも、先生、部員、保護者にとってそんな存在であればと願います。ありがとうございました。

ソフトボール部 保護者会会長【豊田】

日頃より、先生方、体育文化後援会の皆様には、たくさんのご支援を頂きありがとうございます。2018年9月より新体制となり、新人戦県大会2位と順調なスタートを切ることが出来ました。4月を迎えたものの新入部員はゼロ。顧問に佐藤先生と渡邊先生を迎え2年生11名でのスタートとなりました。他校でも部員不足により、いわきでも今年は南連合、北連合と連合チームでの参加が増えたことでも、ソフトボール競技人口の減少が垣間見える1年でした。

先輩がいないなか、生徒も保護者も先生方も手探りで迎えた中体連。勝つことだけが目的ではないが、勝てるチームでありながら、なかなか点がとれないもどかしさ、苦戦する試合内容、いわき市では優勝したものの県大会初戦敗退、生徒たちより疲弊したのは保護者の方だったのかもしれない。

経験者が多いチーム、練習試合でも負けなし、勝てて当たり前とどこかに驕りがあったのかも知れません。この負けを無駄にしないよう強い気持ちで挑んだ最後の新人戦、二人の助っ人の力を借りて、目指せ東北大会で挑みましたが、結果は2年連続準優勝。いよいよ最後のシーズン、そして川部中学校ソフト部として名を残せるラストシーズンです。

この冬、チームから福島県選抜メンバー2名が選出され、3月の全国大会に向け日々頑張っています。残ったメンバーも負けじとトレーニングに励み、互いに切磋琢磨しています。そして何より、パパさんズと名乗るおじさん達が、仕事の合間や休みを利用して、子供たちのサポートをしてくれています。泣いても笑っても、このメンバーで戦える最後のシーズンです。悔いなく、そして思い出に残る最高のシーズンに出来るよう、生徒、保護者、先生方と三位一体となり頑張っていきたいと思います。

陸上競技部保護者会長【清水】

陸上部はクラブチームと掛け持ちの部員も多く、限られた練習時間の中で、一人ひとりがレベルアップの為に努力して参りました。陸上競技場での練習の際は、校長先生をはじめ、諸先生方のご協力によりまして、より実戦に近い状況で練習ができ、市大会入賞、県大会出場も多数、果たすことが出来ました。

2年ぶりにリレー競技にも出場し、選手サポートや応援を通じ、互いに助け合い協力する姿に、個人競技である陸上において、団体競技としての一面を改めて感じる事ができました。

保護者の皆様には大会・練習の送迎、応援等にご協力を頂きまして、有難う御座いました。心より感謝申し上げます。